

Mr. Bassman (ベースマン列伝) Vol.60

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変…。だが、黙々とベースをウオーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥ぐともとの凄い名演・名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

Larry Gales【ラリー・ゲイルズ】

Profile

1936年3月25日、米国ニューヨーク州ニューヨーク生まれ。本名はLawrence Bernard Gales。縁戚関係にあったジャズ・ベーシストのジョージ・デュヴィヴィエの影響もあって、11歳からベースを弾き始める。50年代後半にマンハッタン音楽院で学んだ後、J.C. ハード、エディー・ロックジョー・デビス、ジョニー・グリフィンと共演。64~69年まではセロニアス・モンク・カルテットに在籍し、アルバム『モンクス・ブルース』『ライヴ・アット・ジ・イット・クラブ』『ライヴ・アット・ザ・ジャズ・ワークショップ』『ストレイト・ノー・チェイサー』『アンダーグラウンド』のレコーディングに参加。66年の5月には、セロニアス・モンクの2度目の日本公演でカルテットのメンバーとして、テナー・サクスのチャーリー・ラウズ、ドラムのベン・ライリーと共に来日を果たす。69年以降はロサンゼルスに拠点を移し、エロール・ガーナー、ウィリー・ボボ、レッド・ロドニー、ペニー・カーター、ブルー・ミッチェル等と共演。また、ジミー・スミス、ソニー・クリス、ソニー・ステイット、ビッグ・ジョー・ターナー、ペニー・グリーン等のレコーディングに参加。90年には生涯唯一のリーダー・アルバム『ア・メッセージ・フロム・モンク』をリリース。1995年9月12日、米国カリフォルニア州シルマーの地で息を引き取る。享年59歳。



Photo : Larry Gales

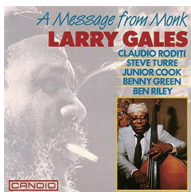
セロニアス・モンク・カルテットでも活躍したいぶし銀のベースマン

ラリー・ゲイルズを語る上で、1964~69年まで在籍し、1966年5月に来日も果たしたセロニアス・モンク・カルテットでの活躍は忘れてはならない。5月16日サンケイ・ホールで行われた来日公演最終日には「荒城の月」が演奏されたそうだ。ラリー本人もモンクとの共演は忘れ難いことだったようで、1990年に発表されたラリー生涯唯一のリーダー・アルバムのタイトルには『ア・メッセージ・フロム・モンク』とモンクの名が使われ、アルバムのラストにはラリーのオリジナルナンバー「A Message From The Highest Priest」が収録されている。

残されているモンクのライヴ映像等で体感できるが、黒縁のメガネをかけ、黙々とベースを刻む姿が印象的。1966年のノルウェー公演で演奏された「ブルー・モンク」等、YouTubeでチェックできるので見てみて欲しい。派手さはないが、玄人好みのいぶし銀のベースマンだ。

LG's Great Albums

リーダー・アルバムは1990年にリリースした『ア・メッセージ・フロム・モンク』の1作品のみだが、参加したセロニアス・モンクやジョニー・グリフィン等の作品も聴いて欲しい。



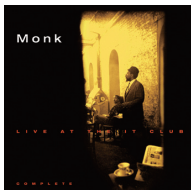
ア・メッセージ・フロム・モンク
ラリー・ゲイルズ
(Candid) [Import LP]

ラリー・ゲイルズの生涯唯一のリーダー・アルバム。セロニアス・モンクに捧げ、モンクのナンバー5曲を含む全6曲収録。1990年録音。



ブルー・ミッチェル
ブルー・ミッチェル
(SOLID Records : CDSOL-45207)

名トランペッター、ブルー・ミッチェルが自身の名前を冠し、ラリー・ゲイルズが参加したジャズ・ファンク・アルバム。全5曲収録。1971年作品。



ライヴ・アット・イット・クラブ
セロニアス・モンク
(ソニー・ミュージックレーベルズ:SICP-4249-50)

1964年米国ロサンゼルスでのジャズ・クラブでのラリーを含むセロニアス・モンク・カルテットの演奏を完全収録したライヴ盤。2枚組、全19曲収録。



ライヴ・アット・ザ・ヴィレッジ・ヴァンガード
ケニー・バレル
(現在取扱なし)

ラリー・ゲイルズが参加した名ギタリスト、ケニー・バレルのヴィレッジ・ヴァンガードでの演奏を収めたライヴ作品。全8曲収録。1978年録音。